

教育委員会だより

●教育長あいさつ	1
●第6次福島県総合教育計画	2
●平成29年度県教育委員会所管予算	3
●県教育委員会名簿・県教育庁新陣容	3
●県教育庁の組織及び電話番号一覧	4

発行 平成29年4月1日(土)
福島県教育委員会
No.164

子どもが安心して学べる

環境づくりを目指して

福島県教育委員会教育長 鈴木 淳



東日本大震災、原子力発電所事故から六年が経過しましたが、昨年度は避難している子どもに対処するいじめの問題が多数報じられるなど、未だ震災に起因する課題が山積しています。一方、イノベーション・コースト構想に寄与する人材の育成を目指す「小高産業技術高等学校」の開校や、地域と共に学び合い、支え合いながら生きる社会の実現を目指す「たむら支援学校」の開校、避難指示の解除等に伴う小中学校再開に向けた動きも加速化しており、本県教育の復興は着実に進みつつあります。

昨今、少子化や核家族化、過疎化が進み、子どもを取り巻く人間関係が希薄化しており、本県では震災等がこれに拍車をかけ、さらには家庭の経済状況による格差などの問題も指摘されています。学校では、いじめや不登校などの問題のみならず、そもそも人としての在り方を自覚させることやコミュニケーション能力の醸成などの課題まで抱えており、これらに学校だけで対峙することは困難な状況です。私たちは、児童生徒の学力や教員の指導力向上についての取組を進めながら、地域と連携した学校のチーム力強化や、子どもたちの学びのセーフティネットの構築に、全力で取り組まなくてはなりません。

このような中、県教育委員会ではこれらの現状を分析し、課題に対応するための教育施策の方針を示す「頑張る学校応援プラン」を策定いたしました。本プランで示した五つの主要施策を、第六次福島県総合教育計画の重視する観点として位置づけ、戦略的に実行してまいります。

主要施策1「学力向上に責任を果たす」では、教員が身につけるべき授業のポイント等を示した「授業スタンダード」を全ての小中学校に配付し、授業の質的向上を目指します。また、教育庁内に「学力向上支援チーム」を新たに設け、特に算数・数学の活用力を高めるための指導・助言体制を充実します。さらに、学習指導要領の改訂や大学入試改革も見据え、アクティブ・ラーニングの手法を授業に取り入れるほか、高校入試について、平成三十二年度入試から志願者全員に学力検査を課す方向で制度の見直しを進め、新しい時代に求められる学力の向上を図ります。

加えて、復興を担うリーダーやグローバル人材の育成など、各学校の特色や生徒の実態に応じた取組により本県ならではの教育を推進し、児童生徒の夢の実現を全力でサポートします。主要施策2「教員の指導力、学校のチーム力の最大化」では、校内研修を充実させるとともに、教員が先進的な取組をしている学校の実践を視察し、その成果を各学校で共有することにより、教員自身がアクティブ・ラーナーとなることを目指します。

また、学校としての目標の明確化や特色化を図るとともに、新たな職として、副校長、主幹教諭を平成三十年から導入するなど、学校のチーム力を強化します。さらに、部活動・休養日の実効性を高めることなどを検討し、教員の多忙化解消に向けた取組を推進します。主要施策3「地域と共にある学校」では、地域社会と学校が一体となって子どもを育む体制の整備に向け、新たに「地域学校協働活動事業」をモデル地区で実施し、児童生徒の積極的な地域行事への参加や、放課後の学習支援を充実させながら、体験活動の中で地域の大人と子どもの接点を増やし、社会性の育成を図ってまいります。また、これらの取組の成果を分析し、コミュニティ・スクールの導入を促進することを含め、家庭・地域と学校とのパートナーシップの強化を図るための構想を策定します。

主要施策4「ふくしまの未来に向けた創造的復興教育」では、課題を多く抱える本県だからこそ、探究型や体験型の学びを推進することにより、子どもたちの「志」を育むとともに、ふたば未来学園高校における未来創造型教育を推進、普及してまいります。また、避難地域の小中学校の再開や、学びを通して地域コミュニティの再生を支援します。

また、今年の夏に開催する南東北インターハイに向けて、競技力の向上を図るほか、全国から来県する方々に対処するおもてなしなど、高校生自身の活動を通して「ふくしまの今と魅力」を発信します。

主要施策5「学びのセーフティネットの構築」では、スクールカウンセラーの効果的な配置や教員の加配などにより、子どもの心のケアをきめ細かに行う体制を整えるとともに、震災後に落ち込んだ体力・運動習慣を取り戻す取組、家庭の経済状況等に関わらない学びへの支援、さらには、新たな特別支援学校整備計画の策定や通級指導教室の充実を図ります。

このほか、近年の大きな社会的課題となっている、スマートフォン等、子どものICTツールとのつきあい方を、子どもたちが自ら主体的に考える場となる「高校生スマホサミット」を、関係部局と連携して開催します。

また、今後の県立高校の在り方については、今年度の夏頃までに学校教育審議会から答申いただく予定となっております。答申を踏まえて検討を進めていくこととしています。教育は、子どもたちの夢や希望の実現を可能にするだけでなく、ふくしまの未来を創る重要な役割を担っています。教育施策の推進に当たっては、学校現場の皆さんと思いを共有してまいりたいと考えておりますので、今年度も子どもたちのために力を発揮してまいりますようお願い申し上げます。挨拶いたします。